

平成 30 年度第 1 回島田市子ども・子育て会議 会議録

日時：平成 30 年 11 月 9 日（金）午前 10 時～11 時 30 分

場所：島田市役所 第三委員会室南

1 開会

【事務局】

ただいまより平成 30 年度第 1 回島田市子ども・子育て会議を始めます。本日は委員の人数 15 名に対して 9 名のご出席をいただいております。島田市子ども・子育て会議条例に基づき、当会議は成立していますことをご報告させていただきます。

また本日、委嘱状、辞令書を配布させていただいた方がいらっしゃると思います。本来であれば直接交付させていただくところではありますが、この配布をもちまして、委嘱、辞令に代えさせていただきますたくご了承ください。

続きまして、配布した資料の確認をお願いします。

【配布資料】

- ・報告案件 1 認可保育所定員の増加について
- ・報告案件 2 小規模保育事業所定員の増加について
- ・資料 1 業務工程表
- ・資料 2 アンケート（就学前保護者用）
- ・資料 3 アンケート（小学生保護者用）
- ・審議案件 2 幼保一元化に向けた取り組みについて
- ・島田市内の待機児童の推移

【事務局】

それでは、今回新任の方もいらっしゃいますので、永田委員長から名簿順に自己紹介をお願いしたいと思います。

●委員の自己紹介

【事務局】

ありがとうございました。それでは、次第に沿って会議を進めます。議事の進行は永田委員長をお願いします、よろしくお願いします。

また、会議の後に議事録をまとめさせていただくにあたり、テーブル中央にありますレコーダーで会議音声を録音させていただきますのでよろしくお願いします。

【永田委員長】

それでは進めさせていただきます、よろしくお願いします。本日はお忙しい中、また少々お天気も良くないですが、ご参加いただきありがとうございます。皆様の闊達なご意見をいただきたいと思っておりますので、挙手をいただき、指名させていただいた上で発表をお願いいたします。

では、今日は審議案件と報告案件がありますが、特に審議案件のご意見をゆっくりいただきたいので、報告案件を先に進めたいと思っております。

それでは、報告案件について事務局より説明をお願いします。

2 (次第3) 報告案件

- (1) 認可保育所定員の増加について
- (2) 小規模保育事業所定員の増加について

【事務局】

●事務局より説明

「認可保育所定員の増加について（移転）」

「小規模保育事業所定員の増加について（移転）」

【永田委員長】

それでは審議案件（1）に進みます。事務局より説明をお願いします。

3 (次第2) 審議案件

- (1) 第2期島田市子ども・子育て支援事業計画策定について

【事務局】

●事務局より資料説明

「資料1 業務工程表」

【事務局】

本日は小学生・未就学児保護者へのアンケート表を主にご審議いただくこととなります。前回に引き続き、今回も専門の会社に業務委託する形になりました。ジャパンインターナショナル総合研究所の伊藤様に来ていただいております。全国でも、また静岡県内においても最大手の会社の一つだと思います。アンケートの詳しい中身について、伊藤様よりご説明いただきますのでよろしくをお願いします。

【ジャパンインターナショナル総合研究所】

●伊藤氏より資料説明

「資料2 アンケート（就学前保護者用）」

「資料3 アンケート（小学生保護者用）」

【事務局】

補足をさせていただきます。今の説明の中で、病児・病後児の説明とアンケート項目の説明がありました。昨年の子ども子育て会議等でも病児保育が島田市にはないという話が出まして、疑問に思った方もいらっしゃると思いますが、実は病児保育をやりたいという話が出てきています。まだ色々詰めている段階ですが、順調にいけば平成32年4月ぐらいから病児保育ができるかもしれないということになり、今協議をしているところです。利用料が1日2千円、半日千円とありますが、一応その事業所が想定している金額を参考に載せさせていただいております。病後児の利用料は現在かかっていないため、ここはまた表現を変えてとジャパン総研さんとやり取りをしている所で、これが最終ではありません。今まで病後児保育しかなかったのが、病児保育もできそうなので、このアンケート項目にも加えてニーズなどを確認したいということで、金額や表現を加えたということです。

【永田委員長】

ありがとうございました。第2期島田市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケートについてです。特に保育・教育ニーズの調査で、対象は就学前の保護者と小学校に行っている保

護者です。内容は全国的な設問と、島田市独自の設問が入れてあり、現在から将来に向けての状況も把握しようという調査です。

病児保育についてですが、院内保育ということですか。

【事務局】

はい、院内保育です。

【永田委員長】

病後児は保育所などでもできますが、院内じゃないと病児は看られません。急性期も看ることができるということで、非常に持ち出しも多いので中々やってもらえないのですが、これはありがたいですね。非常に嬉しいなと思います。

何かご意見があればいただきたいと思います。

【A委員】

資料2、3ともに3ページ、未就学用が問5、小学生用が問6の質問ですが、小学校区を答えてと書いていながら、解答は中学校区になっています。できれば学校区など、表記を変えていただいたほうがいいのかと思います。

【永田委員長】

そのほうがわかりやすいということですね。ありがとうございます。

【B委員】

病後児保育と病児保育は、補助金のカテゴリが一緒なのはわかりませんが、隔たりがすごくあるので、病児保育の利用というのは、ニーズの調査の時には項目を分けたほうが良いのではと思いました。利用料も、やっている私でさえ「あれ？」と思ったので、利用する保護者はもっと迷われると思います。病児保育と病後児保育というのが二種類存在し、そこにはやれる事業所とやれない事業所が明確になっていますので、その辺りは分けてやったほうがニーズの把握が正確にできるのではないかと思います。

【ジャパンインターナショナル総合研究所】

実はこの病児病後児保育の設問に関して、5年前に国からアンケート調査票の叩き案が示され

ていて、それを基に各市町村でアンケート調査票を作って、人数を把握してくださいということでした。それを基本的な国の方針として使ってニーズを把握したいと思っているのですが、やはりわかり易さ、回答される方の立場に立って設問を分けたほうが良い、という事も、今すぐどこで分けるとはお答えできないのですが検討して行かなければと思います。

【B委員】

こういうアンケートは、島田市はこういう施策をやっているのだと知る機会になろうかと思うので、例えば小学3年生までは利用できると載せてみるとか、少しアピール度が足りない印象を受けます。前回の冊子の第2章あたりでしたか、これに乗っ取ってもういちど同じようなアンケートを取ることで変化を知るといった意味合いが多かろうとは思いますが、そこに“島田市はこうやっているけれど利用していますか”のようにもう少し具体的に示すと、「それが島田市の施策だったのね」となるのではと思いました。

それからもう一つ、このアンケートがどこに重きを置いているのかなと思います。あまり量が多くなると大変だと思うのですが、結局現状の把握というところがとても長いです。一度、「しまだ子ども未来応援プラン」の事業計画を出して、それでその計画に対して市としては進捗してきたと思うのです。例えば、量の確保というところでは、幼稚園のこども園化を進めて待機児童を減らしてきたなどで、資料2だと問37、資料1では問27が結構重要なのかなと思います。これが応援プランをやってきたことに対する市民の反応なのでしょうか。やってきた何年間が見えないし、やってきた頑張りに対しての問いかけがこれだと把握できません。

それからこの中で島田市は子育てしやすい町と感じているかという所では、小児科・産婦人科・医療施設、安心して遊ぶ場所が不足しているとか、助成が不十分だとか、施策でできることもあろうかと思うのですが、そういうものに対しても島田市では「こども館」があるのにその「こ」の字も出てこないです。「ぼるね」があってすごいねと他市からも来ていると思いますし、結構楽しんでいる様子も聞いたりしますので、島田市のこども館の利用率も増えていると思います。放課後児童クラブではなく、児童館は結構利用がありますし、フリーで遊ぶところは大事です。応援プランの作成の時も、子どもを保育園や幼稚園や施設に入れたらお任せではなく、親御さんに子どもを育てるのが楽しいよねというところを施策にも入れて欲しいとすごく話し合った印象があります。

【C委員】

SLの所からこども館に行ってから利用がすごく減ってきていまして、前は子ども達が歩きや自

転車で来て、ポンと置いて遊んで公園でも遊ぶというような場所があったのですが、こども館が「おびりあ」に入ってから活動室の利用状況もカウントしていますが減っています。児童センターと母親クラブが両輪のような感じでお手伝いさせていただいて、子どもにも子育て中のママにもなるべく来ていただきたいと、リフレッシュタイムを設けたり、色々な対策や工夫をしたりして、こども館の館長さんともお話していますが、実際には人数がずっと減っています。本当に安全で安心で行かれるああいう場を利用してほしいです。

【B委員】

私達、施設の間人ももちろん頑張るのですが、保育園や児童クラブ等に入ればOKということではなく、親のちから、親力のようなところが欲しいよね、という話でこの計画書の施策の1番について話し合いをしたなと思いました。施設で預かる人間だからこそ、全員ではないけれど危惧していて、施策と同時にこんなことも頑張ってきたというこの思いが次のアンケートではかれるのか、でもそうするととてつもない膨大な量になってしまうというところもあります。

【ジャパンインターナショナル総合研究所】

おっしゃっていただいた通り、確かに満足度等を把握する場合には、やってきたことを開示してから伺わないという部分があると思います。一方で、これもご指摘いただきましたが、島田市は当然アンケートだけではなく、広報手段や色々な機会を用いてこういったことをやってきましたし、普段現場や施設で働き、活躍されている方などからも色々な意見を言っていると思います。今回、アンケート調査に関してはやはり回答していただく方の立場を考えると、お時間がない中で回答していただきたいとお願いするものでもあります。具体的に満足度を聞くというのはまた別の機会で、しっかりと取組のPRやいままでの進捗は当然平行してさせていただいて、アンケートに関しては今後こういうものがあるけどこれは重要と思うかどうか、という事を伺うような設問の趣向を変えることを検討したいと思います。

【永田委員長】

ありがとうございます。アンケートの目的が二つこの中であるように見えて、ひとつはニーズ調査で、もうひとつは評価。評価するに当たっては今までの政策を知っていないと評価ができないのではないかとのご意見ですね。それで、もしかするともうひとつアンケート調査には理由があって、今までの施策を見てもらったり、今後の施策をどういう風にしていくか、その興味を持ってもらうということをつぶんB委員は言っておられるのではと思ったので、もし、ボリュー

ムをあまり増やさないでそういうことができるような何かがあったら、アンケート調査も書きやすいかなと思います。

【D委員】

初めてこの場に参加させて頂き、B委員のような建設的な意見ではなくて本当に基本的な事でお恥ずかしいのですが、アンケート調査を事前に送っていただいて長いのでびっくりしました。幼稚園のお母さん達もフルタイムでお仕事している方もいらっしゃいますし、小さいお子さんがいらっしゃるとか、お年寄りを抱えている方とか、おけいこ事で忙しいお母様もいらっしゃる中で、私は自分の嫁の立場で読ませていただきましたが、25分と書いてありましたが25分じゃ終わらなかったのです。わかりにくい設問もあつたりしたので教えていただきたいのですが、就学前用6ページ、「4. 平日の保育園や幼稚園などの利用状況について」の質問の中で、私の孫は幼稚園を利用しているので「2. 利用している」に丸をつけて問12へ飛びます。そのまま進んで8ページ、問16で「病気で保育園などを休んだことがありますか。」と保育園だけの限定になっていますが、これは、幼稚園は関係ないということによろしいでしょうか。

【事務局】

これは、『保育園等』と書きまして、ここに幼稚園なども含んでいるつもりでいました。

【D委員】

などには幼稚園も含まれているということですね。私も読解力がなかったのですが、お母さん達がたぶん忙しい中で回答すると、幼稚園という文字を入れていただいた方が助かると思いますので是非そうしていただきたいです。

【事務局】

わかりました。

【D委員】

それから、12ページ「6. 土曜・休日の保育園や幼稚園などの利用について」の問22、幼稚園は土日祝日がお休みなのですが、この質問はどのような風に解釈したらよろしいでしょうか。幼稚園とあるので、お母さん達は迷うのではないかと思いました。その下の夏休み冬休みの長期休暇中の預かり保育はどこの幼稚園もやっておりますので、その質問には回答できます。

【永田委員長】

ちなみに、アンケート調査対象の方に、他市の幼稚園に行っている方はおられますか。

【事務局】

はい、おられます。

【永田委員長】

そういう場合、幼稚園が土曜日やっている可能性があるかもしれません。

【事務局】

土曜日に、幼稚園を利用したいという需要があるかないか、と考えた時に、設問で聞いておくべきという考えで入れております。

【D委員】

でも、そういう希望のある方は幼稚園にはいらっしやらないかと思うのですが。これはちょっと残しておいてくださって結構です。

【永田委員長】

表記を考えていただくという事で。

【D委員】

ひとつひとつの質問に意味があるとは思いますが、やはりちょっと長いかなと私自身が思いましたのでその辺を工夫していただければ助かるなという思いです。これはどういう方、各幼稚園や保育園に配布されるのでしょうか？

【事務局】

無作為に抽出した未就学児保護者 1600 人と、小学生保護者 1000 人に郵送で配布して、また郵送で回収します。

【永田委員長】

委員の皆様在所にも行くかもしれないという事ですね。

【事務局】

そうですね。

【C委員】

無作為に見えますけど、島田市には特別支援学校がないのですが、吉田や藤枝にはありますよね。島田市に住所があつて、藤枝や橋から向こうは吉田、そういう特別な障がいのある子どもたちの保護者にも行くのですか。

【事務局】

年齢抽出になってしまいますので、そのデータとして持ち合わせていないので選ばれてしまう可能性はなくはないです。

【永田委員長】

特別支援学校の場合は、地域に、市町にどこでもあるというわけではないので、例えば島田市に住んでおられる場合、該当する可能性もあるということですか。

【事務局】

無作為に年齢で抽出するので、住所地が島田市であれば該当になります。

【C委員】

支援学校に行っている小学1年生の子どももいますし、ではやはりアンケートが行く可能性もあるということですか。

【E委員】

想定の話ですが、未就学児保護者に1600人、小学1～6年生の保護者に約1000人。ですから、その年齢層の子どもを持つご家族に対して郵送するという事になります。特別支援学校の割合と、どのぐらいの子どもに行くかはわかりませんが、完全にコンピューター抽出でやります。逆にバランスが偏ってしまうのも良くありませんし、その辺りは機械的にやってもらおうかと思ってい

ます。

【C委員】

ちょっと特別ですけど、中々そういう支援学校に行っているお母様達との関わりも色々しているものですから、お母様が病気の時に障がいの子どもを預ける所や、家でも旦那さんは仕事行かなくちゃいけないとか、色んな悩みなどに遭遇することがあるものですから聞いてみました。

【E委員】

今の話の答えになるかわかりませんが、昨年、島田市の障がい児福祉計画が策定されています。障がい児の計画ですから、そこでは手厚く計画がたてられています。こちらについてもそこまで障がい児をターゲットにしたという形ではなくて、一般の方プラス、そのような特別支援学校、学級も含めて網羅するような形になりますけど、全般的には一般の方が主体になるのでどうしても比率からいくとあるとは思いますが、障がいの方も含めたものも網羅して行きたいと考えています。

【永田委員長】

ありがとうございます。他に、アンケートを書かれる側としてどうですか。

【F委員】

私にもこのような感じの冊子が届いた事があるのですが、やっぱり届いた時に時間がない方は、と。書いていただけるか、返していただけるか、市側が聞きたいことは沢山あると思うのですが、これを書いた時に悶々とするというか、自分は答えたけれど、じゃあ自分が困った時、誰かに手を差し伸べて欲しいと思った時、どこに行けばいいのか。具体的に色々なサービスがあるにはあるけど知る手段がない、という方がいるんじゃないかなと思いました。多岐にわたるのは分かっているけれど、字数が増えてしまうのかもしれないけれど、もう少し補足のような、こういうのがあるというのも書いてもいいのかなと。「それで？」と思ってしまう感じがします。

【永田委員長】

ありがとうございました。G委員、どうですか。

【G委員】

私もほとんどF委員と同じで、子育てと育児と仕事をやってきて、本当にあっという間に毎日が過ぎて行く中で、島田市の子育て支援とかそういったものを充実させるために協力してくださいと言われて、もちろん嫌な気分はしないし書きたいと思うのですが、確かに長いけど途中であと何分です頑張ってください、とコメントも入っていて工夫もされているので、ちょっと頑張って書こうかなと思うのですが、やっぱりそれに対して見返りを求めてしまう自分というのやっぱり確かにいて、じゃあこれを書いたら何がメリットなの、というところが全く見えてこないで、ちょっとそこが残念かなと思います。せめて、アンケートをやった結果が開示されるとか、設問の中に入っていて「え、三人目って保育料が無料なの」とかって知らない事も結構入っていたりするので、そこでの疑問を解消するためにさっきB先生もおっしゃっていたように、こういう事を行っているのだからこういう事も知ってくださいというものが一枚でも入っていると、不信感というほどでもないけど、こういうことを頑張っていて、こういうことが知りたくてアンケート来たのか、じゃあ書こうかなという気持ちになるかなと思いました。

【永田委員長】

ありがとうございました。H委員、どうですか。

【H委員】

皆様それぞれそうだと思うことがありまして、今お話されていたように、これをこう書いていくと、市としてはどういう答えを想定されているのかというのもちょうど関心がありました。これ書いていくとおそらく、もっと充実してほしいとか施設を増やしてほしいとかという、気持ちを煽り立てるといふ言葉が悪いかもしれないけど、そういう思いがあると思います。もしこれを書いていただくのであれば、私はよく仕事などでそうするのですが、パンフレットや、郵送でやり取りされるということですので、アンケートと一緒に何か市のサービスや、やっている施策を示したものが1枚でも入っていると、また受け止め方が変わってくるのかなと思いました。

【永田委員長】

ありがとうございます。

【F委員】

質問の中で(2ページ)住んでいる所とか育ちを取り巻く環境のところ、祖父母とかの同居・

近居を聞いているのですが、自分たちが一軒家なのかアパート集合住宅なのかでだいぶ情報の入手先とかも変わるのかなという気がしました。それを聞かないのかというのがちょっと気になりました。

【永田委員長】

具体的にはどういうことでしょうか。

【F委員】

例えば、アパートとかだと回覧板がうまく回らないとか、組長がやらなくていいとか、組費を払わなくていいなど、一軒家との扱いが違うことがあります。私が住んでいる所は、年に3～4回は家長もしくは代理が集まって話をする機会がありますし、一軒家だと近所に出てちょっと話す機会がアパートよりは多いかなと思うのですが、そういう所で聞いた話でこういうのがあるんだって、という話が盛り上がり情報入手したりできるので、そういうことでもちょっと分析が変わってくるかなと思います。アパートの方はネットもあるでしょうし、お友達とかに聞くのかもしれないですけど、またちょっと違った受け止め方かなと思いました。

【永田委員長】

その辺りどうでしょうか。

【ジャパンインターナショナル総合研究所】

ありがとうございます。住まわれている住宅の種類というのは、実は調査票の種類によっては伺う事がありまして、今回除いてしまった、入っていない部分に関しては、正直に言うとな国のほうで示されていないという事と、いまお聞きしたお話の想定が出来ていなかったという所があるので、同居近居の状況を、もしこのままこの就学前の間6、7あたりを残すのであれば、そういった設問も一緒に伺えるかどうか検討はしていきたいと思います。

【E委員】

色々のご意見ありがとうございます。主管課ですので、少しお答えさせていただきたいと思います。こども館の話もそうですし、アパート建物の話もそうですけど、色々な情報をこの中に入れて色々なことを聞きたいというのは実はすごくあります。ただ、そうすると今書いてある20分が25分、30分になるということで、ちょっとその情報はきついかかなと思っています。何故、も

ともと多いのかは、国から示されているという話がありましたがその通りで、実は国から大体これを聞きなさいと来ています。この情報を聞いた上で、いったいこの先、この計画で島田市は国の補助金いくらかかるのかという所を見るのです。全国的に各市町にこういう計画を立てていて、その計画を立てたうえで、いったい全国、日本全体でいくらぐらい子育てにこれからかかるのだろうかという目安をつけるのが国の考え方になります。このアンケートの中で、9割方がその国の情報です。そして1割を余裕をもって島田市がもう少し聞きたいと思ってやっていると大体こういう形になってしまうということで、僕らでも沢山の事を聞きたいなと思うところがあるのですが、なかなか聞きにくいという所もあり、考えなくては思っています。20分とあるところも少し減らしながら、というご意見もいただきましたし、今の他の分野もどこかで付け足してこども館に聞いても良いかとか、戸建ての事を聞いてもいいかな、などと思いながら、もう少し肉付けできればと思いますので、そういう具合で中々動きにくいという所だけはすみませんがご承知くださいますよう、お願いします。

【永田委員長】

ありがとうございました。各項ボリュームありますし疲れるということもあって途中でやめられてしまったら意味がないので、むしろ興味があるぐらいで。これ以上という所はなく、できるだけタイトにするっていうのはアンケート調査の鉄則なのだと思います。ありがとうございました。

【永田委員長】

それでは次、(2)「幼保一元化に向けた取り組みについて」に移りたいと思います。事務局、お願いします。

(2) 幼保一元化に向けた取り組みについて

【事務局】

●事務局より資料説明

「審議案件2 (2) 幼保一元化に向けた取り組みについて」

【永田委員長】

ありがとうございました。国の考え方、就労する親の立場というところから子どもの立場から

見る、そして幼保一元化というところですが、これについて皆様のご意見をいただきたいと思えます。

【B委員】

幼稚園が子ども園化する中でずいぶんと待機児童も減ってきたのもわかりますし、取組の方向性としてはいいかなと思っている中で、保育園の子ども園化というところが県内を見渡してもちょっと進んでいないかなという感じがしましたので、希望する園があれば市の施策の中でそういう流れを作ってくださるのはありがたいなと思っています。

【永田委員長】

他にはよろしいでしょうか。11時半ぐらいに終わりたいなと思っているので、まだ時間があります。ストレスを抱えないで色々話してもらって、これで済んでしまうのもどうなのかと思えますのでお願いします。ではお母さんの立場でご意見あれば。

【F委員】

保育所の転園とか、子どもの心理状態を軽減するような事を書いてありますけど、小規模保育では、2歳まででそこから先はやっぱりどこか新しい所へっていう事もあるので、その辺りはどうなのでしょう。できれば同じ園にいたいなということのを押し量りたいのであれば、小学校があるまでの施設がそろったところをなるべく推進したらどうかという気持ちにもなってしまいますけど。

【事務局】

おっしゃる通りだと思っていて、小規模とか地域型保育事業というのがありますが、それがまさに待機児童対策として作られた制度というところがあるかと思えます。やはり一度入園したら卒園まで、小学校就学前まで、同じ施設にいることが理想だと思います。こちらもそれがいいなというところは思っているのですが、この制度が出来た時に、基本的に3～5歳というのは保育園なり幼稚園なりに入っていて、3～5歳の待機児童はほとんど出ておらず、どうしても0～2歳の待機児童が出てしまう。保育士の配置基準など、どうしてもかなり厳しいのでこうなってしまうところがあって、これをなんとかするために作られた制度で整えてきたということがあって、ではその時にそういった施設でなく、0～5歳までの園でないと駄目だとなったときにはおそらく3～5歳の定員が余ってしまうようなことになるのだということがあります。理想では

ないけど、現状取りうる対策を取っているというのが現状だと思います。もしこれがもうちょっと少子化で、今は女性の就業率もあがって利用率も増えていますがそれが落ち着き、少子化で減ってくるとなったときには、この地域型保育事業所は撤退していくというか、おそらく選ばれないことになるかと思います。というような過渡期というか、一時的なちょっとやむを得ないところだと思っています。

【永田委員長】

ありがとうございます。施設の大きさとか保育所の配置とか、そういったものは認定されているところとはずいぶん違うので、そこからまず予算からとか、施設のところとかっていうものを考えると、何歳まででもいられるというのはちょっと難しいと思うのです。ありがとうございます。G委員、どうですか。今まだお子さんは保育所にいらっしゃるのですか。

【G委員】

はい、今まだ保育園に通っています。産休とか、2人目の子ども、3人目の子どもを産むという友達が結構いるのですが、上の子は園から出されてしまうというのです。上の子を出されてしまうと困るから、計画的に子どもを作っているという方も結構いたりして、何故こちらが頑張ってやらなければいけないのか、何故一回出してしまうのだろうかと考えたりします。やはり継続して、上の子も新しく生まれてくる子も同じ園に入れたいと思うのは皆さん思っているので、継続して利用できる園が増えるというのはすごくいいことだと思います。

【永田委員長】

親にとっても、子どもにとっても、ですね。

【G委員】

そうです。子どもの精神状態と書いてあるのですが、保護者の心理状態もすごく影響することだと思うので、とても大事かと思います。

【永田委員長】

ありがとうございます。他にありますか。

【C委員】

これが送られてきた時に、1ページ目に市長の名前があって、ちょっと堅いという印象を受けました。アンケートに答えてあなたの意見が生かされるとあって、提出期限がもっと濃い字でバーンと書いてあって、お母さんたち子育てで忙しいのにこの日までに出不さなくちゃいけないって思うような、ここの文章をもうちょっと柔らかい感じの文章だと良いと思いました。

【ジャパンインターナショナル総合研究所】

ありがとうございます。当社では、他の市町村でも今年度計画調査をさせていただくことがありますが、実はそういったお声もいただくことがありまして、計画を策定してきたなどは正直に言うあまり回答者、保護者に関係ない、という声をいただくこともあります。この調査がどういう目的なのかということと、どう使われるのかという所は必要なのだと思うので、そういうところをやわらかく書けるように出来たらなと思います。

【永田委員長】

あと、できるだけ書く時間がない方のために、土日をなるべく挟むなどですね。

【ジャパンインターナショナル総合研究所】

書かれる方の立場に立つとたぶん平日は難しいだろうと思いますので、土日を調査期間に多く挟むとか、調査期間をスパッと切らずに後で来たものもしっかり反映させていただくとか、そういう工夫はさせていただきたいと思います。

【永田委員長】

ありがとうございます。ちょっと笑顔が見えたのでホッとしました。それでは、その他で何かありますか。

4 その他

【事務局】

沢山の議題の中、色々な意見をいただきありがとうございました。全てを反映できるわけではないのですが、出来る限り頑張りたいと思います。

第2回子ども子育て会議についてですが、暫定ですが、2月26日10時からを予定しています。

概ねこれで進めていますが、また1ヶ月前ぐらいには正式に出席を取る形を出したいと思いますので、一応ご予定ください。

【永田委員長】

皆様のご意見をいただきましてありがとうございました。色々なお立場から頂いたので、とても勉強になりました。市の方にも反映していただけるのではないかと思います、今日は本当にありがとうございました。

【事務局】

以上をもちまして、第1回島田市子ども・子育て会議を終了したいと思います、ありがとうございました。

以上